

静岡県立大学短期大学部

令和8年度 後期 社会人聴講生用 科目一覧

No.	科目名	担当教員	単位数	開講曜日・時限	教室	備考
1	音楽通論	山本 学	2単位	木曜・1限	351	
2	発達と教育	大賀 志真	2単位	火曜・1限	講堂	
3	地域文化論	辻本 侑生	2単位	火曜・3限	103	
4	データサイエンス入門	高田 佳輔	2単位	火曜・5限	154	要事前相談
5	医療福祉システム論	江原 勝幸、吉田 直樹、栗田 真由美	1単位	水曜・1限	講堂	
6	病態学	望月 亮	1単位	木曜・4-5限	206	要事前許可
7	微生物学	吉田 直樹	2単位	火曜・2限	206	
8	歯科衛生統計学	吉田 直樹	1単位	月曜・4限	207	
9	歯周治療学	吉田 直樹	1単位	火曜・4限	207	
10	衛生学・公衆衛生学	眞木 吉信	2単位	水曜・4-5限	206	
11	歯科衛生行政学	平田 創一郎	1単位	木曜・3-4限	207	
12	歯科補綴学	辻 将	1単位	金曜・1-2限	207	
13	司法福祉	竹内 政昭、新任教員	2単位	月曜1限、 木曜・3-4限	308	
14	乳児保育Ⅱ	岡村 由紀子	1単位	水曜・3限	103	
15	社会保障論Ⅱ	中澤 秀一、鈴木 修、磯野 博	2単位	月曜・5限	307	
16	社会福祉原論Ⅱ	江原 勝幸	2単位	火曜・3限	307	
17	子ども家庭支援論	奥田 都子	2単位	火曜・5限	105	
18	社会福祉Ⅱ	江原 勝幸	2単位	木曜・2限	208	
19	発達と老化Ⅰ	小林 佐知子	2単位	火曜・4限	208	

※開講曜日・時限、教室は変更となる可能性があります

時限	時間
1	9:00～10:30
2	10:40～12:10
3	13:00～14:30
4	14:40～16:10
5	16:20～17:50

令和8年度後期講義時間割(10月～2月)

【社会人聴講生用】

曜日	学年	学科	9:00～10:30 1限	10:40～12:10 2限	13:00～14:30 3限	14:40～16:10 4限	16:20～17:50 5限
月	1	歯科衛生					
		介護福祉					
		社会福祉					社会保障論Ⅱ (中澤、磯野、鈴木修) 307
		こども					
	2	歯科衛生				/歯科衛生統計学/(吉田) 207	
		介護福祉					
		社会福祉	/司法福祉/ (竹内、新任教員) 308				
		こども					
	3	歯科衛生					

曜日	学年	学科	9:00～10:30 1限	10:40～12:10 2限	13:00～14:30 3限	14:40～16:10 4限	16:20～17:50 5限
火	1	歯科衛生	発達と教育 (大賀)	微生物学 (吉田) 206			
		介護福祉	講堂			発達と老化Ⅰ (小林佐) 208	
		社会福祉			社会福祉原論Ⅱ (江原) 307		
		こども					
	2	歯科衛生			地域文化論 (辻本) 103	歯周治療学 (吉田) 207	
		介護福祉					データサイエンス入門 (高田) 154
		社会福祉					子ども家庭支援論 (奥田) 105
		こども					
	3	歯科衛生					臨地実習

曜日	学年	学科	9:00～10:30 1限	10:40～12:10 2限	13:00～14:30 3限	14:40～16:10 4限	16:20～17:50 5限
水	1	歯科衛生				/衛生学・公衆衛生学/ (眞木) 206	
		介護福祉	/医療福祉システム論/ (江原・吉田・栗田) 講堂				
		社会福祉			乳児保育Ⅱ (岡村) 103		
		こども					
	2	歯科衛生					
		介護福祉					
		社会福祉					
		こども					
	3	歯科衛生					

(令和8年度後期:10月～2月)

【社会人聴講生用】

曜日	学年	学科	9:00～10:30 1限	10:40～12:10 2限	13:00～14:30 3限	14:40～16:10 4限	16:20～17:50 5限
木	1	歯科衛生				病態学/ (望月) 206	病態学/ (望月)
		介護福祉		社会福祉Ⅱ (江原) 208			206
		社会福祉	音楽通論 (山本学) 351				
		こども					
	2	歯科衛生			/歯科衛生行政学/ (平田) 207		
		介護福祉					
		社会福祉			/司法福祉/ (竹内、新任教員) 308		
		こども					
	3	歯科衛生					

曜日	学年	学科	9:00～10:30 1限	10:40～12:10 2限	13:00～14:30 3限	14:40～16:10 4限	16:20～17:50 5限
金	1	歯科衛生					
		介護福祉					
		社会福祉					
		こども					
	2	歯科衛生	歯科補綴学 (辻) 207				
		介護福祉					
		社会福祉					
		こども					
	3	歯科衛生					

- ・時間割は、「科目名」、「担当教員」、「講義室No.」で表記。
- ・時間割の斜線科目(/ /)は、隔週または変則開講のため、同一の時限でも複数科目履修登録できる。
- ・時間割の同時限破線区分の科目は同時開講のため1科目を選択。

- 後期授業
10月1日(木)～12月25日(金)及び1月6日(水)～2月2日(火)

- 後期集中講義・補講・試験期間
2月3日(水)～12日(金)
※詳細日程は後日発表

- 午後休講
10月16日(金) 入試準備
11月20日(金) 入試準備

- 防災訓練 特別講義
11月5日(木)

※後期時間割は、変更になることがあります。

科目名	音楽通論	Introduction to Music		
学科（専攻）・学年	全学科・1年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	山本 学			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科DP4 社会福祉学科DP1 こども学科DP1			
授業の目的（GIO）	音楽を通じて芸術的感性と素養を養うこと、および幅広い教養を得ることを目的とする。 街で耳にしたあのクラシック音楽はなんて曲だろう、いろいろなジャンルの音楽の美しさとその背景について知りたい、楽譜が読めるようになりたい、そんな思いに教養科目として答えたいと考える。音楽の通論として広く一般的に論ずるために、音楽史、演奏、鑑賞、楽典（音楽理論）を有機的に複合しながら理解していく方法で講義を進めていく。			
授業の到達目標（SBOs）	○クラシックを中心にその他多岐に渡るジャンルの音楽に触れ、その構造を理解する。 ○楽譜の基本的な仕組みについて理解し、初歩の読譜力を身につける。 ○音楽を通じて、芸術的感性と素養を養う。			
授業の計画と内容	第1講 西洋音楽史の俯瞰／音名／のだめカンタービレとクラシック音楽（第5講まで） 第2講 古代・中世の音楽／音と音楽の概念・要素 第3講 ルネサンスの音楽1／楽譜の読み方1 譜表 第4講 ルネサンスの音楽2 C.モンテヴェルディ“ecco mormorar l'onde”／楽譜の読み方2 クレ読み 第5講 バロックの音楽1 ヘンデル／楽譜の読み方3 まとめ 第6講 バロックの音楽2 J.S.バッハ／拍子記号と音符の長さ／指揮者C.クライバーの音楽 第7講 古典派の音楽 モーツァルト／4拍子のリズム／指揮者小澤征爾の音楽 第8講 古典派からロマン派へ／3拍子のリズム／サン＝サーンス“動物の謝肉祭” 第9講 ピアノ鍵盤と連弾／日本の年末のクラシック・ベートーヴェン“第九” 第10講 ロマン派の音楽 シューマン、メンデルスゾーン、ブラームス、リスト、ショパン 第11講 近代の音楽 ドビュッシー、ラヴェル、ラフマニノフ 第12講 オペラ・ミュージカルの魅力1 ビゼー“カルメン”第1幕、第2幕もしくはミュージカルシネマ前半 第13講 オペラ・ミュージカルの魅力2 ビゼー“カルメン”第3幕、第4幕もしくはミュージカルシネマ後半 第14講 現代の音楽 S.ライヒ“city life”（サウンドスケープ、ミニマル、サンプリング、言葉の旋律） 第15講 ワールドミュージックとクロスオーバー			
評価の方法	授業中の提出物70%、期末レポート30%により評価する。			
テキスト	授業中に適宜、資料を配布する。			
参考書	特になし			
学生へのメッセージ	この授業でたくさんの音楽に触れ、その背後にある深淵な世界に思考と感性を広げていきましょう。 途中、楽器に触れる体験はありますが、人前で演奏することはないので、初心者でも恥ずかしい人でも大丈夫です。 また、リアクションペーパーなどを通して、受講生の皆さんの興味に合わせて授業を一緒に作っていきたいと思います。			

科目名	発達と教育	Development and Education		
学科（専攻）・学年	全学科・1年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	＊ 大賀 志真			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科 DP4 社会福祉学科 DP1 こども学科 DP1、DP2			
授業の目的（GIO）	人間の心身の諸側面における発達について教育的視点から理解し、さまざまな教育の在りようを考察する。あわせて現代の教育の状況と環境についても検討する。			
授業の到達目標（SBOs）	・ディスカッション等の活動を通して、発達のおよび教育的視点を持って意見を述べるができる。また、他者とのかかわりの中で考え学びを深めようと、グループワークに参加することができる。 ・授業で扱った発達および教育に関する知識をもとに、教育の在り方について自分なりの考察を述べるができる。			
授業の計画と内容	第1講 発達とは何か 第2講 身体と運動の発達 第3講 知能の発達 第4講 情緒の発達 第5講 社会性の発達 第6講 自我の発達 第7講 教育の意義と目的 第8講 学習の原理 第9講 指導と実践の方法 第10講 人格形成と適応 第11講 発達の障害（知的障害、身体障害） 第12講 発達の障害（発達障害） 第13講 教育相談 第14講 教育の歴史的変遷と制度および現代的課題 第15講 まとめ			
評価の方法	授業態度 40％ ディスカッションへの積極的な参加、学び合う姿勢や発言が求められる。 配慮が必要な場合は、事前に申し出るように。 試験結果 60％ 授業を通して得た知識や理論をもとに自分なりの考察が述べられることが求められる。			
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。			
参考書	必要に応じて授業時に紹介する。			
学生へのメッセージ	全講を通して、担当教員が発達支援現場（学校、保健センター等）での臨床経験をもとに、事例や症例を示しながら講義を行います。			

科目名	地域文化論	Regional Culture		
学科（専攻）・学年	全学科　2年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度　後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	辻本　侑生			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科　DP4 社会福祉学科　DP2 こども学科　DP1			
授業の目的（GIO）	この授業では、地域文化にアプローチする分野の一つとして、民俗学について学びます。民俗学は、私たちの日常のものととの歴史性や多様性を探究する学問です。民俗学というと「伝統文化」を研究する、というイメージが強いかもしれませんが。もちろんそういった研究も盛んですが、ここ20年くらいで議論が進んでいる「現代民俗学」では、私たちの現代の生活に密接にかかわるトピックが扱われています。本授業では、そうした現代民俗学の基本的なものの見方や考え方を学びます。			
授業の到達目標（SBOs）	現代民俗学とはどのような学問か、社会問題や地域課題とのかかわりを示しながら説明できる。			
授業の計画と内容	第1回　ガイダンス/民俗学とは何か 第2回　世界・日本の民俗学史 第3回　現代民俗学の視点―「日常」と「当たり前」― 第4回　焼畑山村の日常 第5回　津波常習地の日常 第6回　性的マイノリティの日常 第7回　「食」から日常と当たり前を考える 第8回　家族の現代民俗学 第9回　死者と妖怪の現代民俗学 第10回　ケアと現代民俗学 第11回　地域創生・まちづくりと現代民俗学 第12回　民俗学をやってみるには①：フィールドワークと聞き書き 第13回　民俗学をやってみるには②：メディアの活用 第14回　民俗学をやってみるには③：調査結果の取りまとめ 第15回　まとめ/現代民俗学の可能性			
評価の方法	期末レポート70％　普段の提出物(コメントシート)　30％			
テキスト	特に定めない。毎回資料等を配布する。			
参考書	島村恭則2020『みんなの民俗学』平凡社新書 岩本通弥ほか編2021『民俗学の思考法』慶應義塾大学出版会 及川祥平・川松あかり・辻本侑生編2023『生きづらさの民俗学』明石書店			
学生へのメッセージ	関心がある方は、気軽に受講して下さい。			

科目名	データサイエンス入門	Introduction to Data Science		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科介護福祉専攻・2年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	講義	聴講可 （担当教員との事前相談が必要です）
担当教員	高田 佳輔			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科DP4、DP5			
授業の目的（GIO）	データサイエンスは近年の社会において重要かつ魅力的とされる科学です。本科目は、twitterやInstagramなどのSNS利用者のデータ、および、スポーツファンのデータを用いつつ、実際に自分たちでデータサイエンスを体験しながらその内実を学ぶ参加型の授業を展開します。データと言われると皆さんは縁遠いものと感じるかもしれませんが、データは案外、私たちの身近に存在しています。例えば、スマートフォンを用いてたくさんのデータを集めることが可能ですし、スマートフォンでそれを分析してしまうこともできます。本授業では、データの利用・分析の手軽さを学びながら、その手軽さゆえに起こりうる統計を用いた「ウソをつかない・ウソに騙されないため」の統計リテラシーを獲得してもらうことを目指します。 また、データサイエンスとは、データを中心に、自然現象、社会現象を問わず、既存の学説や仮説を実践的に検証したり、物事の本質に関する情報を探索的に発見する方法論を開発したり、応用への道を開く学問分野です。つまり、問題設定から調査の実施、データの解析、分析結果から価値の創出までの一連の過程がデータサイエンスとなります。このような一連の過程によって問題解決に関する意思決定を行い他者に提案する能力は、現代社会のあらゆる場面において必要とされています。本授業は、みなさんに、あらゆる現場で実践可能なデータサイエンスに関する知識・能力を獲得してもらうことを目的としています。			
授業の到達目標（SBOs）	・統計による「ウソをつかない・ウソに騙されない」リテラシーを獲得する。 ・設定した問題に適した調査を設計できるようになる ・問題設定に適したデータ解析手法を選択できるようになる。 ・基礎的なデータ解析手法を身につける。 ・解析結果から、価値の創造ができるようになる。 ・実際の調査データを用いてデータ解析から価値の創造まで行えるようになる。			
授業の計画と内容	第1回 データサイエンスの社会における役割（1）：データの有用性とウソ 第2回 データサイエンスの社会における役割（2）：データサイエンスの各過程の重要性 第3回 調査の設計：データの取得方法（無作為抽出、有意抽出）、管理方法 第4回 データ分析の実践（1）：平均値・標準偏差 第5回 データ分析の実践（2）：度数分布表・ヒストグラム 第6回 データ分析の実践（3）：要約統計量・箱ひげ図 第7回 データ分析の実践（4）：t検定 第8回 データ分析の実践（5）：一要因分散分析 第9回 データ分析の実践（6）：二要因分散分析① 第10回 データ分析の実践（7）：二要因分散分析② 第11回 データ分析の実践（8）：相関係数 第12回 データ分析の実践（9）：単回帰分析 第13回 データ分析の実践（10）：重回帰分析 第14回 リアルなデータを用いた実習（1）：SNS・ゲームアプリ利用者に利用頻度や対人関係について尋ねたデータを自由に分析① 第15回 リアルなデータを用いた実習（2）：SNS・ゲームアプリ利用者に利用頻度や対人関係について尋ねたデータを自由に分析②			
評価の方法	小テストおよび提出物(40%)、期末レポート(60%)			
テキスト	指定なし。毎回資料を配布する。			
参考書	授業内で紹介する。基本的には当該回の授業の発展的な内容を扱う書籍を紹介する。			
学生へのメッセージ	標準的な中学校レベルの数学に対する理解とPCを扱うスキルが多少あれば、基本的には受講に関して問題ありません。データサイエンティストは近年、最も魅力的な職業とも言われています。職業にはせずつとも、データサイエンスに関する知識・能力については、今後の人生において、何かを説得的に提案する時や、ウソの統計に騙されない・統計を用いてウソをつかないために等、多くの場面において役立つことでしょう。			

科目名	医療福祉システム論	System of Health and Welfare		
学科（専攻）・学年	歯科衛生学科・1年 社会福祉学科社会福祉専攻・2年 社会福祉学科介護福祉専攻・1年 こども学科・2年	単位数	1.0単位	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	江原 勝幸・*吉田 直樹・*栗田 真由美			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科DP2、DP3、DP4 社会福祉学科DP2、DP3、DP 4 こども学科DP1、DP4、DP5			
授業の目的（GIO）	社会の高齢化が進展する中で、地域における保健・医療・福祉活動の実際や連携のあり方、地域ケアのシステム化などについて学ぶ。			
授業の到達目標（SBOs）	1 保健医療福祉サービスに従事する専門職の役割について述べることができる。 2 保健医療福祉従事者の連携、協働の必要性と方法について考えることができる。 3 地域ケアシステムのためにどのようなことが大切か記述できる。 4 歯、口腔の機能及び歯科疾患の概要を述べることができる。 5 要支援者、要介護者の歯科健康管理の必要性と方法について考えることができる。 6 生存権を理解し、それらが規定されている意味から保健医療福祉の連携を考えることができる。 7 現代の社会問題から保健医療福祉サービスが連携・協働する必要性を理解することができる。 8 保健医療福祉専門職の連携・協働の課題について述べることができる。			
授業の計画と内容	第1講 高齢者の特徴と地域包括ケアのシステム化（栗田） 第2講 地域包括ケアにおける専門職の役割とケアシステムの構築（栗田） 第3講 医療保険制度、診療報酬及び介護報酬の概要と医療制度改革（栗田） 第4講 歯、口腔の機能及び歯科疾患（吉田） 第5講 要支援者、要介護者の歯科健康管理（吉田） 第6講 生存権の意義と保健医療福祉分野の連携（江原） 第7講 家庭内の暴力・人権問題に対する保健医療福祉サービスの連携・協働（江原） 第8講 地域包括ケアの推進における多分野専門職者連携の課題（江原）			
評価の方法	授業態度（10%）、各教員に提出するレポート（各30%、合計90%）			
テキスト	特になし。適宜、資料はプリントを配布します。			
参考書	授業の中で適宜紹介します。			
学生へのメッセージ	3人の教員によるオムニバス形式で行います。授業内容の順番は変更する場合があります。 吉田が担当する講義では、歯科医師として大学病院の歯科診療での経験を内容に盛り込み、講義を行います。			

科目名	病態学	Patho p hysiology		
学科（専攻）・学年	歯科衛生学科・1年	単位数	1.0単位	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	講義(原則として対面)	聴講可。ただし担当講師の許可が必要
担当教員	＊望月 亮			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科 DP2,DP3,DP4			
授業の目的（GIO）	大学生に相応しい能動的、自発的な学習の獲得や歯科医療者の有識性についての理解と考察を深める。 また、歯科患者が合併する種々の全身疾患の病態生理および発症機序、ごく基本的な診断や治療について理解を深め、安全な歯科診療の実現に果たす歯科衛生士の役割を学ぶ。			
授業の到達目標（SBOs）	・歯科医院を訪れる患者が有するさまざまな合併症、全身疾患の病態生理を理解する ・それらの合併症、全身疾患の基本的な診断、治療、管理を把握する			
授業の計画と内容	第1講 病態学序論 第2講 脳循環 血管迷走神経反射とその予防、対策 第3講 呼吸と循環 ガス交換と酸素飽和度 第4講 不整脈ことに心房細動 第5講 神経難病 消化と体液管理 第6講 糖尿病 B,C型肝炎を主体とする感染症 第7講 悪性新生物 がんの病理と治療法 第8講 精神疾患 周術期口腔機能管理 全体のまとめ			
評価の方法	8割以上出席者を単位認定の対象とする。 自主的な能動的な講義受講、およびレポート等を総合的に判断して総合評価を行う。			
テキスト	講義前後に必要な応じてプリント、レジュメなどをユニバ経由等にて配布する。			
参考書	歯科衛生士必須 有病者歯科学(永末書店)			
学生へのメッセージ	この「病態学」は、学外の開業歯科医師である私、望月が担当する、1年生諸君にはかなり型破りな講座です。歯科医療職として、口腔機能の維持管理に通じることは当然です。しかしそれだけではいかにも物足りない。口腔を生体内の一器官と位置づけ、口腔以外の生体機能の生理、病理と病態に関する知見と理解を備えてこそその歯科「医療」職です。 またそれら全身的病態と口腔周辺との関連性を正しく理解できたとき、初めて口腔に携わる歯科医療職としての有識性を備えた自然科学者と称することができるのではないのでしょうか。 各回の講義では、大学及び都立病院歯科麻酔科医としての実務経験をもとに、全身疾患の評価、管理の実際について必要な場合には動画なども活用しながら解説します。 歯科医療者として知っておかねばならない全身疾患の基本的な病態生理、およびその周辺について学びながら、安全な歯科医療に歯科衛生士がどのような役割を果たせるのかを考え続けてほしいと思います。 併せて、大学生としての選択科目受講が実りある、意義あるものとなるような、充実した内容の講義を目指します。 この講義を選択した先輩方にもお聞きのうえ、学生諸君の積極的な受講を期待しています。			

科目名	微生物学		Microbiology	
学科（専攻）・学年	歯科衛生学科・1年	単位数	カリキュラムにより異なります。	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	＊吉田 直樹			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科DP1、DP3、DP4、DP5			
授業の目的（GIO）	微生物学を通して、生物界の自然法則を認識させるとともに、微生物と疾病との関わりを理解させることを目的とする。 紀元前から現在までの微生物学の歴史について、感染について、微生物の分類について、微生物の一般的性状について、種々の感染症とそれを引き起こす病原微生物について、細菌の培養法と観察法について、免疫のしくみについて、化学療法について、滅菌と消毒について学ぶ。			
授業の到達目標（SBOs）	・微生物学の歴史について説明する ・感染と感染症について説明する ・微生物の分類について説明する ・細菌の性状と病原性について説明する ・主な病原性細菌について説明する ・マイコプラズマ、スピロヘータ、リケッチア、クラミジアが引き起こす感染症について説明する ・ウイルスの性状とウイルス感染症について説明する ・真菌、原虫が引き起こす感染症について説明する ・細菌の培養法と顕微鏡観察法について説明する ・免疫の仕組みについて説明する ・免疫応答に関する臓器と細胞について説明する ・抗原抗体反応について説明する ・アレルギーについて説明する ・化学療法について説明する ・滅菌と消毒について説明する			
授業の計画と内容	第1講 微生物学概論 微生物学の歴史 第2講 感染と感染症 第3講 微生物の分類、細菌の性状と病原性 第4講 主な病原性細菌 第5講 マイコプラズマ、スピロヘータ、リケッチア、クラミジアが引き起こす感染症 第6講 ウイルスの性状とウイルス感染症 第7講 真菌、原虫が引き起こす感染症 第8講 細菌の培養法と顕微鏡観察法 第9講 免疫(1) 免疫とは 第10講 免疫(2) 免疫応答に関する臓器と細胞 第11講 免疫(3) 抗原抗体反応 第12講 免疫(4) アレルギー 第13講 化学療法 第14講 滅菌と消毒 第15講 微生物学のまとめ			
評価の方法	筆記試験（80％）と講義中の平常点（20％）により総合的に評価する。			
テキスト	歯科衛生学シリーズ『微生物学』医歯薬出版、講義プリント『微生物学』			
参考書				
学生へのメッセージ	我々が生活している場には、種々多数の微生物が存在しており、我々の生活に複雑に関わりをもっている。この講義では、微生物をとおして生物界の自然法則を認識するとともに微生物の疾病との関わりあいを学んで欲しい。 全講を通して、担当教員の、大学や研究所における経験を内容に盛り込み、講義を行います。			

科目名	歯科衛生統計学	Dental Biostatistics		
学科（専攻）・学年	歯科衛生学科・2年	単位数	1.0単位	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	＊吉田 直樹			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科DP1、DP2、DP3、DP5			
授業の目的（GIO）	人間社会の衛生、特に歯科分野における衛生に関する統計学を理解する。すなわち、歯科に関連した事象を観察し、それを、数量化して資料を作成することを学ぶ。さらに、それを整理し、分析を行って法則性を発見することを学ぶ。また、得られた資料に関して、合理的な推測や判断をするための方法を理解する。			
授業の到達目標（SBOs）	・標本調査について説明する。 ・度数分布表とヒストグラムを作成する。 ・平均値，標準偏差，中央値，最頻値について説明する。 ・2つの標本平均値の差の検定を説明する。 ・カイ二乗検定について説明する。 ・相関係数について説明する。 ・相関係数の検定を実施する。			
授業の計画と内容	第1講 統計分析法（1） 標本調査 第2講 統計分析法（2） 度数分布 第3講 統計分析法（3） 基本統計量の計算 第4講 統計分析法（4） 正規分布 第5講 統計分析法（5） 2つの標本統計値の差の検定 第6講 統計分析法（6） カイ二乗検定 第7講 統計分析法（7） 相関 第8講 歯科衛生統計学のまとめ			
評価の方法	筆記試験（80％）と講義中の平常点（20％）により総合的に評価する。			
テキスト	講義プリント『歯科衛生統計学』			
参考書				
学生へのメッセージ	歯科衛生統計学の基礎を確実に身につけてください。 全講を通して、担当教員の大学における歯科医師としての臨床と研究の経験を内容に盛り込み、講義を行います。			

科目名	歯周治療学		Periodontology	
学科（専攻）・学年	歯科衛生学科・２年	単位数	1.0単位	
開講年度学期	令和８年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	＊吉田 直樹			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科DP1、DP3、DP5			
授業の目的（GIO）	歯周病は、う蝕とともに、口腔機能を減退させる歯科領域の二大疾患である。歯周病の原因、病態などを把握し、その予防法および治療法を理解し、歯周病の予防および治療に対する歯科衛生士としての役割を理解する。			
授業の到達目標（SBOs）	・歯周組織の構造と機能を説明する ・歯周病の分類を説明する ・歯周病の原因を説明する ・咬合性外傷を説明する ・歯周医学を説明する ・歯周治療の進め方を説明する ・歯周病の検査を説明する ・歯周基本治療を説明する ・モチベーション（動機づけ）を説明する ・ブラークコントロールを説明する ・スケーリング・ルートプレーニングを説明する ・咬合調整、暫間固定、限局矯正を説明する ・歯周外科治療の目的と分類を説明する ・種々の歯周外科治療（歯周ポケット搔爬術、新付着術、歯肉切除術、フラップ手術、歯周形成手術、歯周組織再生療法）を説明する ・根分岐部病変を説明する ・歯周治療としての口腔機能回復治療を説明する ・歯周病の研究について説明する ・メンテナンスおよびサポーターティブペリオドンタルセラピー(SPT)を説明する			
授業の計画と内容	第1講 歯周治療学概論 第2講 歯周組織の構造 歯肉、歯根膜、セメント質、歯槽骨の構造と機能 第3講 歯周病の分類 第4講 歯周病の原因（１） 局所性因子に関して 第5講 歯周病の原因（２） 全身性因子に関して 歯周医学 第6講 歯周治療の進め方 第7講 歯周治療への導入、検査・診断、治療計画の立案と説明 第8講 歯周基本治療（１） モチベーション（動機づけ）、ブラークコントロール 第9講 歯周基本治療（２） スケーリング・ルートプレーニング、咬合調整、暫間固定、限局矯正 第10講 歯周外科治療（１） 歯周外科治療の目的と分類 第11講 歯周外科治療（２） 歯周ポケット搔爬術、新付着術、歯肉切除術 第12講 歯周外科治療（３） フラップ手術、歯周形成手術、歯周組織再生療法 根分岐部病変 第13講 歯周治療としての口腔機能回復治療 第14講 歯周病の研究について 第15講 メンテナンスおよびサポーターティブペリオドンタルセラピー(SPT) 歯周治療学のまとめ			
評価の方法	筆記試験（80％）と講義中の平常点（20％）により総合的に評価する。			
テキスト	歯科衛生学シリーズ『歯周病学』医歯薬出版、講義プリント『歯周治療学』			
参考書				
学生へのメッセージ	歯周病はう蝕とともに口腔機能を減衰させる二大疾患である。多くの歯周病は顕著な自覚症状を伴わない、慢性経過をとる炎症性疾患であるが、適切な口腔管理、特にブラークコントロールを行えば予防も可能であると考えられる。また治療の予後にもブラークコントロールは重要である。患者自身の継続したブラークコントロールが必要であり、そのための患者教育が大変重要な意味を持つ。歯周病についての十分な知識を身につけ、予防およびメンテナンスの重要性、特に適切な患者教育の重要性を認識してほしい。全講を通して、担当教員の大学における歯科医師としての臨床と研究の経験を内容に盛り込み、講義を行います。			

科目名	衛生学・公衆衛生学		Public Health and Ecology	
学科（専攻）・学年	歯科衛生学科・1年	単位数	カリキュラムにより異なります。	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	眞木 吉信			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科 DP2、DP3、DP5			
授業の目的（GIO）	人間または人間集団と周りの自然環境や社会環境とのかかわりを観察し、生態学的なバランスと適応の問題を考慮して、保健衛生のための手法や対策を考える。			
授業の到達目標（SBOs）	1. 健康の定義と予防の概念が説明できる。 2. 健康に関わる疫学と統計が理解できる。 3. 健康と環境の関連が説明できる。 4. 地域保健の概要が説明できる。 5. 健康に関わる現在の問題点を考えることができる。			
授業の計画と内容	第1講 健康と予防 第2講 疫学の定義と方法 第3講 人口の動向と統計 第4講 健康に関わる環境 第5講 地球環境と公害 第6講 医療廃棄物 第7講 感染症の予防と対策 第8講 食中毒の予防と対策 第9講 地域保健概論 第10講 母子保健 第11講 学校保健 第12講 職域保健 第13講 成人保健 第14講 老人保健 第15講 精神保健・国際保健			
評価の方法	筆記試験80％とレポート20％			
テキスト	①歯科衛生学シリーズ 保健生態学（医歯薬出版） ②国民衛生の動向2024/2025（厚生労働統計会）			
参考書	講義時に紹介する ・歯科衛生学シリーズ 歯科衛生研究（医歯薬出版）			
学生へのメッセージ	基礎と臨床の橋渡しをする社会系の科目です。			

科目名	歯科衛生行政学	Dental Public Health		
学科（専攻）・学年	歯科衛生学科・2年	単位数	1.0単位	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	＊平田 創一郎			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科DP1、DP3、DP4、DP5			
授業の目的（GIO）	我が国の法制度下において、歯科衛生士としての業務を適正に行うために、歯科衛生行政についての仕組みと関係法令を理解する。			
授業の到達目標（SBOs）	1. 医療行政を説明する。 2. 歯科医療の特異性を説明する。 3. 歯科衛生士の専門性を説明する。 4. 医療専門職を説明する。 5. 地域保健行政を説明する。 6. 衛生行政を説明する。 7. 薬事行政を説明する。 8. 医療の動向を説明する。			
授業の計画と内容	第1講 医療法 第2講 歯科医師法・医師法 第3講 保健師助産師看護師法 第4講 歯科衛生士法① 第5講 歯科衛生士法② 第6講 歯科技工士法・その他の医療関係職種 第7講 薬事衛生法規・保健衛生法規・その他の衛生法規 第8講 医療の動向			
評価の方法	定期試験（筆記試験）（90％）と講義中の平常点（10％）により総合的に評価する。 各回の講義開始時にプレテストを、終了時にポストテストを実施するが、その結果は形成的評価とする。次回の講義にてフィードバックを行う。			
テキスト	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2「保健・医療・福祉の制度」』医歯薬出版株式会社			
参考書	『歯科六法コンメンタール（第3版）』ヒョーロン・パブリッシャーズ 『国民医療費』厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/37-21.html 『医師・歯科医師・薬剤師統計（旧：医師・歯科医師・薬剤師調査）』厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/33-20.html 『衛生行政報告例』厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/36-19.html 『医療施設調査』厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/79-1.html			
学生へのメッセージ	担当教員平田創一郎は、厚生労働省の医系技官として歯科医師臨床研修専門官を務め、歯科医師臨床研修制度の策定、歯科医療機関における医療安全管理体制の構築等を担当しました。また、東京都をはじめ地方公共団体の歯科保健に係る委員会の委員等を務め、歯科保健施策立案・推進に携わっています。日本歯科衛生士会では「歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会」のタスクフォースを担当しております。これらの経験を交えながら全講を通じて講義を行います。歯科衛生士業務は法制度に基づいて実施されていることを理解し実践していただくことを願っております。			

科目名	歯科補綴学	Prosthodontics		
学科（専攻）・学年	歯科衛生学科・2年	単位数	1.0単位	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	*辻 将			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科DP1、DP3			
授業の目的（GIO）	「補綴」とは、歯・歯列・顎骨・顔面の欠損を人工装置で補い、障害された機能と、失われた顔貌の審美性を改善・回復することである。「歯科補綴学」とは、このような治療を考究する学問のことである。そこで、歯科衛生士業務を行うために必要な歯科補綴学の基礎を理解する。			
授業の到達目標（SBOs）	歯科補綴学の目的を理解し、歯科衛生士として歯科補綴の治療においての患者への診療業務や役割と適切な診療補助業務が行えるような知識と実技を身につける。			
授業の計画と内容	第1講：歯科補綴の概要 歯科補綴学の概要、目的、分類 第2講：補綴歯科治療の基礎知識 補綴治療における歯科衛生士の役割とそのための基礎知識 第3講：歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療 第4講：補綴装置の種類とその構造 クラウン・ブリッジ、総（全部床）義歯、局部（部分床）義歯、特殊義歯 第5講：補綴歯科治療における検査・診断 第6講：クラウン・ブリッジの治療の概要 クラウン・ブリッジの種類 診療の流れ 器材 第7講：クラウン・ブリッジの治療の診療補助 クラウン・ブリッジ治療のアシスタント業務 第8講：全部床義歯の治療の概要 総義歯の治療の流れ 第9講：全部床義歯の治療の実際 総義歯治療に用いられる器材とその業務 第10講：部分床義歯の治療の概要 局部義歯の治療の流れ 第11講：部分床義歯の治療の実際 局部義歯治療に用いられる器材とその業務 第12講：補綴歯科治療における歯科技工 印象採得前後の準備、技工士との連携、技工指示 第13講：インプラント治療の実際 インプラント概論、治療の流れ、器材、業務 有床義歯治療との違い 第14講：補綴歯科治療の患者指導 補綴治療前後の患者指導、メンテナンス、プロフェッショナルケア 第15講：要介護高齢者の補綴歯科治療 要介護高齢者への補綴治療の意義と目的、注意事項			
評価の方法	筆記試験（100％）			
テキスト	全国歯科衛生士教育協議会監修：歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学、医歯薬出版			
参考書				
学生へのメッセージ	歯科医学は興味深く、一生の仕事として続ける価値があります。歯科補綴学を担当しますが、現在も診療だけでなく、学会などで学術活動もしていますので、何でも気軽に聞いてください。講義の際は実際の治療内容や衛生士業務についてできるだけわかりやすく説明します。			

科目名	司法福祉	Law and Forensic Social Services		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・2年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和7年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	＊長谷川 哲也、＊竹内 政昭			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科 DP4			
授業の目的（GIO）	司法福祉 ①成人犯罪や少年非行の実情と刑事司法の制度の仕組み、そこに関わる近年の福祉的支援等の動向を理解する。 ②刑事司法に関係する裁判所、捜査機関、矯正施設等のさまざまな機関とその役割について理解する。 ③犯罪被害者に関する制度及び支援について理解する。 ④刑事司法に関係する福祉専門職の役割を理解する。 更生保護 ①更生保護の制度と目的を理解する。 ②保護観察の方法と処遇について事例等に触れながら理解する ③再犯防止に向けた国・地方公共団体・民間団体の取組みも理解する。 以上のような内容を学習し、刑事司法と福祉の領域における相談や援助、支援に必要な基礎知識および技法の習得を目指す。			
授業の到達目標（SBOs）	司法福祉 ①刑事司法の制度の仕組みとそこに関わる近年の福祉的な支援等の動向を説明できる。 ②刑事司法に関係するさまざまな機関とその役割について説明できる。 ③犯罪被害者に関する制度及び支援について説明できる。 ④刑事司法に関係する福祉専門職の役割を説明できる。 更生保護 ①更生保護の理念と制度について理解を深める。 ②更生保護の特徴である官民協働態勢について理解する。 ③恩赦や被害者支援制度について理解を深める。 ④再犯防止に向けた国と地方公共団体の再犯防止計画について考える。			
授業の計画と内容	第1講 更生保護制度の理念と概要（担当：竹内） 第2講 仮釈放と生活環境の調整（担当：竹内） 第3講 保護観察の処遇（担当：竹内） 第4講 緊急保護と社会福祉（担当：竹内） 第5講 医療観察制度（担当：竹内） 第6講 恩赦制度・被害者支援制度・再犯防止計画（担当：竹内） 第7講 刑事司法の領域における福祉（担当：長谷川） 第8講 犯罪と刑罰、成人犯罪と少年非行の現状（担当：長谷川） 第9講 刑事裁判手続及び少年審判手続（担当：長谷川） 第10講 刑事司法の機関と刑務所等の施設（担当：長谷川） 第11講 家裁における社会調査・少年審判と少年院等の施設（担当：長谷川） 第12講 犯罪・少年非行の研究（担当：長谷川） 第13講 犯罪被害者等の制度と支援（担当：長谷川） 第14講 配偶者暴力及び児童虐待と司法（担当：長谷川） 第15講 刑事司法の領域における福祉の今後と課題（担当：長谷川）			
評価の方法	レポート（100％）			
テキスト	講義の際にプリントを配布する。			
参考書	①伊藤富士江編著『司法福祉・実践と展望』 ぎょうせい ②日本ソーシャルワーク教育学校連盟編著『（最新社会福祉士等養成講座10）刑事司法と福祉』 中央法規 ③松本勝 編著『更生保護入門』（第6版）成文堂			
学生へのメッセージ	司法福祉(長谷川) ・授業は講義形式で行い、犯罪や少年非行を扱う司法分野に福祉職として関わる際に必要な内容を取りあげます。具体的には、刑事司法制度や関係する諸機関についての基本的な知識を習得し、その上で刑事司法領域での福祉的な支援の在り方を学びます。裁判所に家庭裁判所調査官として勤務した担当教員の実務経験をふまえ、少年非行を含めた刑事司法領域の実情とそこでの福祉的な関与について具体的にわかりやすく授業します。 更生保護（竹内） ・犯罪や非行に陥った人が社会復帰するには容易ではありません。どんなに反省し更生意欲を高めても、犯罪者等を受け入れてくれる地域社会と雇用してくれる事業所がないと進みません。犯罪や非行が新聞やTVの向こう側の話ではなく、身近な問題として捉えていき、どうすれば彼等を受け入れることが出来るのか、一緒に考えていきます。			

科目名	乳児保育Ⅱ	Nursery of Early Children Ⅱ		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・１年 こども学科・１年	単位数	1.0単位	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	演習	聴講可
担当教員	＊岡村 由紀子			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科DP1、DP4、DP5 こども学科DP1、DP5			
授業の目的（GIO）	・ 少子高齢化が進み社会で子どもを育てる（社会的養育）時代となり、乳児保育への要望・期待は近年ますます高くなっています。 又、現場での乳児保育の実践・研究が進み、乳児期における教育・保育の重要性が高まり、全ての子どもの『最善の利益』を求めて保育を創りだし、専門性の高い実践力が求められています。 ・ この科目を通じてより丁寧な子ども理解と指導を深め、理論と実践を結び付ける高い専門性が、身につくことを目的とします。			
授業の到達目標（SBOs）	・ 養護及び教育の一体性を踏まえて3歳未満時の子どもの生活やあそびの保育方法・環境について、具体的に理解する ・ 3歳未満児の発達と個性を含めた配慮の実践を理解し保育・指導を考える ・ 乳児保育における計画の作成を理解し、具体的に考える ・ 保育所における子育て支援の現状を理解し、具体的な支援を考える ・ 幼保小連携についての基礎と乳児期の役割について考える			
授業の計画と内容	第1回 養護と教育の一体性とは？ 具体的事例を通じて考える 第2回 子どもの自己の育ちと保育者の指導 主体性の育ちと保育者の具体的関わり 第3回 乳児保育の環境構成 具体的な生活・あそびを人的・物的視点から考える 第4回 手作りおもちゃの作成 具体的な活動を通じておもちゃの意義を考える 第5回 6ヶ月未満児の発達と保育内容 1 発達・安全・健康 第6回 6ヶ月未満児の発達と保育内容 2 保育の実践と環境・あそび・指導 第7回 6ヶ月から1歳3ヶ月未満児の発達と保育内容 1 発達・安全・健康 第8回 6ヶ月から1歳3ヶ月未満児の発達と保育内容 2 保育の実践と環境・あそび・指導 第9回 1歳3ヶ月未満児から2歳児未満児の発達と保育内容 1 発達・安全・健康 第10回 1歳3ヶ月未満児から2歳児未満児の発達と保育内容 2 保育の実践と環境・あそび・指導 第11回 2歳児の発達と保育内容 1 発達・安全・健康 第12回 2歳児の発達と保育内容 2 保育の実践と環境・あそび・指導 第13回 乳児保育における計画の実践 1 長期的・短期的な指導計画 第14回 保育所等の子育て支援を考える 実際の子育て支援の現状と課題 第15回 幼保小の連携の中で考える乳児保育の役割			
評価の方法	授業態度（20%）、提出物（授業後振り返りカード 25%）定期試験（55%）を総合的に理解する			
テキスト	長瀬美子「乳児期の発達と生活・あそび」ちいさいなかま社 赤木和重・岡村由紀子他共著「どの子にもあ～楽しかった！の毎日」ひとなる書房			
参考書	授業の中で紹介します			
学生へのメッセージ	・ 授業全体を通じて、担当教員が小規模保育所・認定こども園・幼稚園・児童発達支援事業などで、長い間実践・保育責任者園長の立場で担当、経験したことを土台に理論と実践をつなげて、「実践を科学する」視点で講義を行います。 ・ 乳児の経験は、大人の10年ともいわれるくらい大事な時期で、人間の一生の土台を創ります。 そんな大事な時期に関わることを自覚し、現実の子どもの理解力・保育の分析力・保育実践力など高い専門性を身につけるため、自己学習を大事にしましょう。			

科目名	社会保障論Ⅱ	Social Security Ⅱ		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・1年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	中澤 秀一、磯野 博、鈴木 修			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科DP2、DP4			
授業の目的（GIO）	① 社会保障制度が、実際の社会福祉の現場でどのように機能しているのかについて理解する ② 社会保障制度を提供する福祉行政の体制や財政的な課題を理解する ③ 労働関連法規及び就労支援施策、就労支援の組織、団体、専門職に関する知識・技術を習得する ④ ソーシャルワーカーとして、「働く・働き続けるを支援」するために必要な基本的な視点を身につける			
授業の到達目標（SBOs）	・様々な社会福祉の現場で社会保障制度がどのように活用され、またどのような課題を抱えているのかを理解する ・福祉行政の実施体制と福祉専門職との関係について理解する ・居住する市町村の財政状況や福祉計画についての内容を調べて理解する ・就労支援における各種法体系や就労支援制度について理解する ・就労支援に係る組織、団体および専門職について理解する			
授業の計画と内容	第1講 ソーシャルアクションと社会保障（磯野） 第2講 行政の組織と福祉行政（社会福祉基礎構造改革と福祉行政の実施体制）（磯野） 第3講 地方公共団体の歳入と歳出、財政状況（磯野） 第4講 福祉計画の策定・実施・評価と分野別計画の実際（磯野） 第5講 現代の労働と社会保障（中澤） 第6講 働くとは（中澤） 第7講 生活保護行政と生存権（中澤） 第8講 路上生活者と生存権（中澤） 第9講 路上生活者の自立支援（中澤） 第10講 近年の社会保障制度改革（中澤） 第11講 福祉の現場（中澤） 第12講 労働法規（障害者雇用促進法、労働基準法他）（鈴木） 第13講 就労支援施策と専門機関・専門職（鈴木） 第14講 職業準備性と職業適性（鈴木） 第15講 障害者就労支援（鈴木） ＊担当者の順番は前後することがあります			
評価の方法	・授業態度等の平常点（50％） ・レポート（50％） （担当者ごと）			
テキスト	新・社会福祉士養成講座10「福祉行財政と福祉計画」（最新版）中央法規出版			
参考書	総務省ホームページ 「地方財政白書」 http://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/hakusyo/index.htm 「地方交付税」 http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/c-zaisei/kouhu.html 「市町村決算カード」 http://www.soumu.go.jp/iken/zaisei/card.html 厚生労働省ホームページ 「地域福祉計画」 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/c-fukushi/index.html			
学生へのメッセージ	生活問題を解消していくためには、公的なサービスを計画的に充実させていくことが重要であることを理解してほしい。公的なサービスを提供するためには、財源が必要であり、どのような財政状況となっているかを知ることが、福祉専門職としてだけでなく、国民・住民としても大切なことだと考えます。また、皆さんが社会福祉の現場に出た時に必要な専門的な知識だけでなく、社会の一員として必要な生きる力も身につけて「引き出し」をたくさん作ってください。			

科目名	社会福祉原論Ⅱ	Introduction to Social Welfare and Social Work Ⅱ		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・1年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	江原 勝幸			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科DP1、DP2、DP4			
授業の目的（GIO）	1. 社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題と福祉支援について理解する。 2. 福祉政策の概念や理念について理解する。 3. 福祉対象者のニーズに応じた福祉政策の構成要素・過程について理解する。 4. 福祉政策の動向と実施課題について理解する。 5. 福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。			
授業の到達目標（SBOs）	自分自身の生活から社会福祉について考え、自分の言葉で「社会福祉とは何か」を述べるができる。 新聞記事・報道番組などを活用し、狭義の福祉に限らず、広義の福祉の視点から現代の社会問題と福祉政策の現状と課題を考察することができる。			
授業の計画と内容	1. 社会福祉とは何か（展開）：前期の振り返りと各自の福祉観 2. 現代の社会問題と福祉支援（1）：虐待・DV 3. 現代の社会問題と福祉支援（2）：生活困窮 4. 現代の社会問題と福祉支援（3）：孤立・孤独 5. 現代の社会問題と福祉支援（4）：いじめ・自殺 6. 現代の社会問題と福祉支援（5）：労働・過労死 7. 現代の社会問題と福祉支援（6）：偏見・差別 8. 福祉政策の基本的視点：福祉政策の概念と理念 9. 福祉政策におけるニーズ：種類と把握方法 10. 福祉政策における資源：種類と把握方法 11. 福祉政策の構成要素：福祉ミックスの役割と機能 12. 福祉政策の過程：実施方法と政策評価 13. 福祉政策の動向：包括的支援と実施課題 14. 福祉サービスの供給と利用：供給部門・過程と利用過程 15. 社会福祉とは何か（まとめ）：社会福祉の理想と現実			
評価の方法	授業への取り組み（20％）、授業内ワークシート（15％）、提出課題（15％）、定期試験（50％）			
テキスト	各講義においてレジュメ・資料を配布する。			
参考書	各講義において適宜紹介する。			
学生へのメッセージ	マスメディアの情報を活用して日常の生活で問題意識を持ち、家族、近隣、地域、社会での自らの生活やライフイベントについて見つめ直し、自らの福祉観を広め・深められるよう主体的に取り組んで下さい。			

科目名	子ども家庭支援論	Child and Family Support		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・2年 こども学科・2年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	奥田 都子			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科DP1、DP2、DP3、DP4 こども学科DP3、DP4、DP5			
授業の目的（GIO）	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援と、その意義について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。			
授業の到達目標（SBOs）	1. 子育て家庭に対する支援の必要性や、その意義・目的について説明できる。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義について説明できる。 3. 子育て家庭の支援体制について説明できる。 4. 子育て支援の具体的な展開方法を、事例に即して検討し提案することができる。 5. 子ども家庭支援の現状・課題について説明できる。			
授業の計画と内容	第1講 子ども家庭支援の意義・必要性・目的・機能 第2講 子ども家庭支援の視点 第3講 保育者による子ども家庭支援の意義と基本 第4講 子ども家庭支援のための法制度と社会資源 第5講 子育て支援サービスの意義と実際 第6講 保育の場における日常的な子ども家庭支援 第7講 地域子育て支援活動における子ども家庭支援 第8講 対象別子ども家庭支援①ひとり親・再婚家庭への対応 第9講 対象別子ども家庭支援②障がいのある子どものケースへの対応 第10講 対象別子ども家庭支援③多文化への対応 第11講 子ども家庭支援のためのソーシャルワーク、カウンセリングマインド 第12講 失敗事例に学ぶ保育士の子育て支援①保護者の心情 第13講 失敗事例に学ぶ保育士の子育て支援②伝え方の技術 第14講 事例を通して学ぶ子育て支援（事例1のロールプレイ） 第15講 事例を通して学ぶ子育て支援（事例2のロールプレイ）			
評価の方法	①リアクション・ペーパーまたは授業内課題 25% ②授業態度（発言、グループワークへの寄与、ロール・プレイへの参加） 25% ③最終レポート 50% 以上を総合して評価する。			
テキスト	植木信一編著『改訂 保育者が学ぶ子ども家庭支援論』建帛社			
参考書	必要に応じて随時紹介する。			
学生へのメッセージ	2年間の学びの総括の時期にあたる授業です。この授業を通して、これまでの学習で得た知識や技術を、子育て支援の場面でどのように活用していくかを考え、ディスカッションやロールプレイを通して実践力を高めましょう。			

科目名	社会福祉Ⅱ	Principles of Social Welfare II		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科介護福祉専攻・1年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	江原 勝幸			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科DP1、DP2、DP3、DP4			
授業の目的（GIO）	1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程（生活と福祉）について学ぶ。 2. 介護実践に必要とされる観点から、個人の権利を守るための個人情報保護や成年後見制度などの諸制度の基礎的知識について理解する。			
授業の到達目標（SBOs）	1. 社会の変化と現代社会の特徴を押さえた上で、自立生活の基礎となる個人、家族、地域、社会・組織の概要や機能・役割について述べるができる。 2. 各年代におけるライフイベントの変化や現代社会のライフスタイルの特徴から、個人・家族の生活と地域・社会の関わりについて考察することができる。 3. 個人情報保護や権利擁護制度など地域社会における個人の権利を守る仕組みについてその法律や制度の概要を述べるができる。 4. 保健医療福祉の施策の概要を理解し、介護実践に必要な地域包括ケア及び多職種連携の必要性について説明することができる。			
授業の計画と内容	第1講 社会福祉Ⅱを学ぶ意義・目的（社会生活や家族機能の変化と社会福祉） 第2講 社会と生活のしくみ①（社会生活の基本的機能） 第3講 社会と生活のしくみ②（ライフスタイルの変化） 第4講 社会と生活のしくみ③（家族の構造と機能） 第5講 社会と生活のしくみ④（社会の構造と機能） 第6講 社会と生活のしくみ⑤（地域概念とコミュニティケア） 第7講 社会と生活のしくみ⑥（地域生活における生活支援） 第8講 社会と生活のしくみ⑦（現代社会における家庭や地域社会の課題） 第9講 地域共生社会の実現に向けた制度や施策（地域共生社会における包括ケアシステム） 第10講 社会と生活のしくみ⑧（人権尊重と個人の権利を守る制度） 第11講 社会と生活のしくみ⑨（地域生活を支える制度や施策） 第12講 社会と生活のしくみ⑩（地域での要支援者を支える福祉サービス） 第13講 社会と生活のしくみ⑪（福祉と保健医療の連携） 第14講 社会と生活のしくみ⑫（介護実践に関連する制度や施策） 第15講 社会福祉Ⅱまとめ（地域で誰もが安心して暮らしていくために）			
評価の方法	授業への取り組み（20%）、授業内ワークシート（15%）、提出課題レポート（15%）、定期試験（50%）			
テキスト	使用せず。各授業時にレジュメ及び関連資料等を配布する。			
参考書	授業中に紹介する。			
学生へのメッセージ	自分自身、家族、近隣、地域、社会での自らの生活や自分のライフイベントについて見つめ直し、日常生活や社会との関係から福祉観を深められるよう問題意識を持つこと。			

科目名	発達と老化 I	Development and Aging I		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科介護福祉専攻・1年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	小林 佐知子			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科DP1,2			
授業の目的（GIO）	老化を生涯発達心理学の視点からとらえ、加齢による心理的变化と心理特性について基礎的知識を習得する。 人間の成長と発達の基礎的理解、特に老年期の発達と成熟、加齢に伴う心身の変化とそれに伴う日常生活の様々な事象について理解する。			
授業の到達目標（SBOs）	・高齢者の心のメカニズムについて習得し、発達との関連で説明できる。 ・高齢者と関わる際の心理的側面での配慮の方法、加齢に伴って増加する心の病・障がい等の知識と対応の仕方を習得し、説明できる。			
授業の計画と内容	第1講 人間の成長と発達の基礎的理解①（生涯発達における老年期の位置づけ） 第2講 人間の成長と発達の基礎的理解②（ライフサイクルと老年期） 第3講 人間の成長と発達の基礎的理解③（心身の老化） 第4講 老化に伴うところとからだの変化と生活①（精神の老化と疾患） 第5講 老化に伴うところとからだの変化と生活②（知能と加齢） 第6講 老化に伴うところとからだの変化と生活③（知覚・注意と加齢） 第7講 老化に伴うところとからだの変化と生活④（記憶と加齢） 第8講 老化に伴うところとからだの変化と生活⑤（パーソナリティの発達の变化） 第9講 老化に伴うところとからだの変化と生活⑥（パーソナリティの測定） 第10講 老年期の適応（サクセスフルエイジング） 第11講 対人関係と社会生活 第12講 高齢者と家族関係 第13講 心理療法1（表現療法） 第14講 心理療法2（心理的援助） 第15講 まとめ			
評価の方法	定期試験またはレポート40%、小レポート（授業時の課題を含む）40%、授業態度20%			
テキスト	指定なし			
参考書	下仲順子編『老年心理学（改訂版）』培風館 その他、授業中に適宜紹介する。			
学生へのメッセージ	自分の身近な高齢者を思い描きながら、授業内容について深く思考してください。高齢者に関する社会問題も含め、老年期の幸福とは何か、一緒に考えていきましょう。			